

第三十二回 Neesima Room 企画展

「大正デモクラシー期の同志社

―原田助総長と海老名弾正総長の時代―」

資料編

同志社社史資料センター

目次

展示の概要

科外講演と同志社女子専門学校卒業生の同志社大学入学

学生生活の一こま

旧図書館（啓明館）の大閲覧室

なお、引用文中の補注には「 ー」を用いた。

展示の概要

二〇〇七（平成十九）年十月一日より二〇〇八（平成二十）年二月二十九日まで同志社大学今出川キャンパスのハリス理化学館二階にて、第三十二回Neesima Room企画展「大正デモクラシー期の同志社―原田助総長と海老名弾正総長の時代―」を開催した。今回の企画展は二年前の同志社創立百三十年周年を契機に始まった、四回続きの企画展の最後にあたる。この四回の企画展は、「同志社」「キャンパス」という大きなテーマのもと、各企画展を同志社百三十年の歴史をトピックごとに遡及するものである。過去3回のテーマは「躍動する同志社―京田辺開校二十年―」「戦後の同志社 一九四六―一九八六」「同志社と戦争 一九三〇―一九四五」である。

今回の企画展で取り上げた原田総長と海老名総長の時代（一九〇七年―一九二八年）は同志社が学園として大きく飛躍した大正時代を跨いでいる。大正期の同志社の学園としての発展は爆発的であった。特に学生数の増加が顕著で、『事業報告』によると、一九〇八（明治四十一）年の時点で学生総数六百六十五人に対し、一九二八（昭和三）年では四千六百三人と、学生数は約七倍となっている。これは、一九一二（明治四十五）年の専門学校令による同志社大学の開校、そして、一九二〇（大正九）年の大学令による同志社大学の開校などの教育体制の充実が原因として挙げられる。同志社大学の設立は新島襄の宿志であり、学園全体にとつての宿願であった。この意味で同志社史において大正時代を含めた原田・海老名両総長の時代は一層輝かしい時期である。

今回企画展を構成するにあたり、主に三つの視点に留意した。一つ目は大学史である。大学の開校と、それに伴うキャンパスの変容を中心に、大学全体の歴史を学生生活の写真資料なども織り交ぜながら取り上げた。二つ目は科外講演である。原田と海老名の両総長の人脈は幅広く、両総長は、国内外の実に多岐に渡る分野の人々を同志社に招いては講演会を開いた。現在同志社には当時の科外講演に関する記事だけでなく、講演の講師を担当した人物ゆかりの品々が学内に点在している。今回の展示では、由来が判明している資料の中から特に著名と思われる人物の資料を展示した。三つ目は国際主義である。同志社では、その創立者である新島襄を始め、同志社英学校開校時から既に外国人宣教師が英語で授業するなど、国際主義はその草創期から存在する考え方であった。学生に関しても明治後期から朝鮮や台湾からの留學生を受け入れていたことは既によく知られている。これらに加えて、他にアメリカや中国、そして台湾などの視察団の写真資料や、同志社とは何かとゆかりのあるハワイの資料などを紹介した。

以上、三つの視点に留意しながら企画展の準備を進めた結果、従来の研究成果を補足する調査結果や、写真資料を通じて大正期の学生生活の様子などが少なからず明らかになった。本稿には科外講演と同志社大学の共学化に関するリスト、従来それほど言及されなかった学生生活に関する資料、最後に大学令による同志社大学開校時のシンボルであり、学生生活の中心の一つであった旧図書館（現・啓明館）の関連資料を掲載した。

科外講演と同志社女子専門学校卒業生の同志社大学入学

科外講演

科外講演という名称は、明治後期においては特別講演と記されるなど、原田と海老名の両総長の時代に限れば名称は定まっていない。明文化された最初の説明としては、海老名の後を継いだ大工原銀太郎総長新任時にまとめられた『財団事業報告（昭和四年）』（五頁）に次のようにある。

日常教室に於て施す普通教育の知育は、或は法令上に於て、或は時間の點に於て、課程上種々の制限を受くるを免れざるを以て、一定の原理を授くる以外に、人格の基礎を培養せしむる上に於て、或は緊急なる時務を理解せしむる如き點にまで、兎角充分に廣汎なる特殊の修養を授く事を得ざる虞少からず。此缺點を補はん為め、随時情操教育の一方法として、各學部とも、屢々科外講演を行ひ來れるが、就中本邦學界に於ける同種の企圖中、最も特色とせる所は、本社に在りては、宗教問題及び國際心の涵養に資する講演特に多き點に在り。此は本社創立の使命と、發展の徑路とに徴し、當然のことなれ共、官公立の諸學校に比し、特殊の便宜を有せる點より考察し、今後も出來得る限り繼續發展せしむるやう意を用ふる所あらんとす。

科外講演は情操教育の一環であり、原田、海老名総長の時代に続き大工原総長の時代にも科外講演は引き続

き実施された。ここでは科外講演に招聘された人物とその講演内容を確認できる限りリストで掲載した（科外講演者リスト参照）。参考文献は『同志社時報』第三十一号〜第二四六号、及び『総長報告』明治四十年〜昭和三年度である。尚、『同志社百年史』通史編一（七七〇〜七八〇頁）に既に科外講演に関するリストが掲載されているが、今回のリストはこれを補足するものである。また、講師の氏名は調査資料に掲載された表記に準拠した。

同志社大学の男女共学の実施

大正期の同志社大学の動向の中で特に際立った特徴の一つに、一九二二（大正十一）年の男女共学の実施がある。これは一九一三年東北帝国大学、一九一八年北海道帝国大学に続いて日本で三番目と言われている（『同志社女子大学百二十五年』同志社女子大学 二〇〇〇年 九十四頁）。同志社のリベラルな風潮を示す一例である。

ただし、大学への女子の入学には条件があった。一九二一（大正十）年四月一日付の文部大臣中橋徳五郎宛で文部省に提出した「申請書」には、学則第六十條に「高等女學校卒業者」を加えるとある。その理由は「女子ト雖モ相当ノ学力アル者ハ選科生トシテ入学差支ナシト認ム」というものであった。これについては同年五月五日付で中橋文相から早々に許可が下りている。また、翌年に同志社が文部省に提出した「申請書」（中橋文相宛一九二二（大正十一）年三月八日付）には、学則四十三條第二項に「同志社女學校専門學部英文科卒業者」を入学対象者に加えることを申請している。その理由は「同志社女學校専門學部英文科卒業者ハ學部入学ニ関シ豫科修了者ト同等ノ学力アルモノト認メタルニ依ル」とある。この同志社大学からの申請に対して同年

三月三十日付で文部省から速やかに許可の回答が寄せられた。まずは選科生の受け入れ、そして女専の英文科卒業生に限定されるが、学部への女学生入学が認められたことで大学の実質的な共学体制が始まることになる。初期の女学生の入学に関しては、一九三一（昭和六）年七月三日付で文部省専門學務局の調査依頼を受けて同志社大学が作成したリストが存在する。これを元に、『同志社校友會名簿』、『同志社同窓會會員名簿』、『同志社女学校専門学部原簿』からこのリストを検証した。名前の記載は、『同志社女学校専門學部原簿』に準拠した。

リストから一九二一年に許可を受けた女子学生の選科入学は、一九二八年の同志社女子専門学校（以下、女専と略す）卒業生の荒木（旧姓 木下）貞子が最初である。荒木は家政科卒業生であったため選科入学になったと考えられる。女専英文学科卒業生にだけ認められていた大学本科への入学は、文部省の認可を受けた翌年の一九二三年から始まる。共学実施後の同志社大学への女子学生の入学は、調査が行われた一九三一年までの九年間で実に五十一名にのぼる。一九三一年になり、女専出身者以外の女子学生にも条件付で受験資格が認められ、同年には二名が梅花女子専門学校から受験を経て入学している。

科外講演者リスト

注・氏名欄及びタイトル欄は原文のまま記載。年度は『総長報告』に準拠。

年度	開催日時	対 象	場 所	氏名 () 内は当時の肩書き	講演題もしくはその内容
1907 (明治40) 年度	1907年 4月14日	全校	-	シンプソン (英国エディンバラ大学)	「衛生と宗教」
	5月6日	-	公会堂	カルマルカール (印度ボンベイ)	-
	5月10日	-	公会堂	ローリー (救世軍少将)	-
	5月11日	全校	-	ブース (救世軍大将)	-
	5月12日	全校	-	クラフト (米国万国矯正会主事)	「国際政策と市場道徳の関係」
	5月20、21日	-	公会堂	アレキサンダー (英国平和協会主事)	-
	6月3～5日	神学校	-	宮川経輝	「現代の教役」
	6月6日	-	公会堂	ボスオース	「人の為し得る最善」
	6月8日	-	公会堂	ヒッチコック (米国シカゴ)	-
	6月17日	-	公会堂	セベランス (米国クリプランド市実業家)	-
	7月1日	-	公会堂	ハリス (日本メソジスト教会監督)	-
	10月3日	-	公会堂	タフト (米国陸軍卿)	-
	11月10日	全校	-	横井時雄	「時勢と教育」
			-	志賀重昂	「詩文の話」
			-	巖谷季雄	「桃太郎主義」
	11月11、 13、15日	神学校	-	湯浅吉郎	「図書としての旧約全書」
	12月12日	全校	-	宋秉峻 (韓国農商工部大臣)	-
		女学校	-	テイト (救世軍少佐)	キリストの愛を知ることが幸福の秘訣であるという趣旨の演説
	1908年 1月16日	女学校	-	留岡幸助 (東京家庭学校校長)	「経済と感恩」
	2月3日 ～5日	神学校	-	海老名弾正	「原始基督教」
2月12日	女学校	-	ハミル (万国連合日曜学校幹事)	「ポーロがテモテに贈りし書」	
2月20日	女学校	-	麻生正蔵 (日本女子大学学監)	欧米の女性教育を視察した所感	
3月2日	女学校	-	ブリッグス (米国サンフランシスコ)	-	
年度内に十数回	神学校	-	松本亦太郎	「心理学」	
1908 (明治41) 年度	5月26日	-	公会堂	ヒックス (米国伝道会社副主事)	「土耳其遊歴談」
	6月7日	神学校	-	綱島佳吉 (東京番町教会牧師)	「天の賞罰」
	6月8日	-	公会堂		大西祝、松波仁一郎に関する懐旧談
		神学校	-		「日本の伝道と伝道者」
	6月9日	神学校	-		「韓国伝道と対韓策」
		女学校	-		「野村望東の故事」
	6月10日	-	公会堂		山崎為徳の逸事に関する懐旧談
	6月10、11、 15日	女学校	-	木村清松	伝道説教
	6月12日	-	公会堂	スチンソン (南洋トラック島の宣教師)	トラック島について
	6月16日	-	公会堂	木村清松	パレスチナ漫遊談
	夏期	神学校	-	松本亦太郎	-
	-		浮田和民	-	
	-		高木壬太郎	-	
	-		マクリントク (米国シカゴ大学教授)	-	
	-		留岡幸助	-	

年度	開催日時	対 象	場 所	氏名（）内は当時の肩書き	講演題もしくはその内容
1908 (明治41) 年度	10月9日	-	公会堂	バックストン（英国）	-
	10月19日	全校	-	今岡文（兵庫教会牧師）	-
	10月20日	全校	-	金子卯吉（福井教会牧師）	-
	11月中旬 より5回	神学校	-	松本文三郎（京都文科大学長）	「インド哲学思想の変遷」
	1909年 2月2日	-	礼拝堂	アーサー・スミス（宣教師）	「支那の現状」
	2月10日	-	礼拝堂	丹波清次郎	-
	2月23～26日	神学校	-	留岡幸助	「宗教家の社会的地位」
	3月1、2、 4、5日	神学校	-	宮川経輝	-
	3月9日	女学校	-	英国奉仕同盟創立者ミース伯爵夫人	「ミニストリング・ミース」
	3月11日	-	公会堂	コール（米国シカゴ人工学技師）	成功ある生涯の秘訣は、まず神の国とその義を求めよというイエスの教訓にあるという内容
不明	全校	-	ハート（歴史の大家、米国ハーバード大学教授）	-	
	女学校	-	シェーファー夫人（英領コロンビア探検に従事）	-	
1909 (明治42) 年度	4月13日	-	-	クーバー（米国青年会聖書研究主事）	「聖書研究の必要及方法」
	4月26日	-	-	ワイルダー（香港駐在米国総領事）	-
	5月10日～ 6月21日	-	公会堂	谷本富（京都帝国大学文科教授）	故大西博士記念講演会
	5月17、 19、21日	神学校	-	デフォレスト	「道徳と宗教との関係」
	5月31日	-	公会堂	ニューエル（米国シカゴ）	-
	6月15日	-	公会堂	チャールズ・W. フェアバンクス（米国前副大統領）	-
	6月28日	-	-	ボルトン（米国シカゴ大学）	「考ふる人となれ」、「正義の人となれ」、「実行の人となれ」、将来社会を導く者は少なくともこの三個の資格が必要という内容
	10月4日	-	公会堂	牧野信	大神宮の起源、其国史との関係、之に対する国民の心得等
	10月20日	-	公会堂	アーサー・スミス（在清国宣教師）	「基督について」、「精霊について」
	10月25日	神学校	-	ゼー・ジー・ロジャヤー（米国ユニバーシティ・ユニオン会頭）	「神」
	10月26日				「黙示」
	10月27日				「基督」
	10月27日	-	公会堂	ノルトン（アレキサンダー伝道隊）	-
	10月28日	神学校	-	ゼー・ジー・ロジャヤー（同上）	「祈祷」
	10月29日				「生命」
	12月2～4日	-	神学館	海老名弾正	「基督論」
12月10日	専門学校	-	上田敏（京都帝国大学教授）	「最近小説界の現状」	
1910年1月 14日より1 学期間	神学校	-	松本文三郎（京都文科大学長）	「印度仏教史要」	
2月1日	-	公会堂	巖谷小波	「米国雑感」	

年度	開催日時	対 象	場 所	氏名（）内は当時の肩書き	講演題もしくはその内容	
1909 (明治42) 年度	2月3日	神学館	-	田島法科大学長	「満州見聞録」	
	3月7日	-	公会堂	キング (コーネル大学前学長)	-	
1910 (明治43) 年度	4月12日	-	公会堂	浮田和民	「南米の将来」	
		-	-	徳富猪一郎	教訓	
	5月6日	-	公会堂	大隈重信	「現代国民の覚悟」	
	5月16日	-	公会堂	キング (米国オベリン大学総長)	-	
	5月16～19日 3回	神学校	-		第1回「イエスの永遠の意義」、第2回「神と人との就ける友情の原理」、第3回「精神生活を虚妄なりと云ふは皮相の見なり」	
	5月23日	女学校	-	フェノロサ夫人	美術趣味の涵養について	
	5月24日	女学校	-	守屋東子 (婦人矯風会少年禁酒部部長)	-	
	5月24～26日	神学校	-	小崎弘道	「基督教の真髄」	
	5月31日	全校	-	ブラウン (米国オークランド第一組合教会牧師)	「不完全なる知識の使用法」(神学生)、「主義に立つこと剛健なれとの意」(男子学生)	
	6月14日	専門学校	-	市村光恵 (東京帝国大学法科大学教授)	滞欧中の所感	
	9月ごろ	全校	-	古谷久綱	伊藤公幼児の教育に就て	
	10月15日	専門学校	-	水崎基一	朝鮮談	
	11月30日	女学校	-	小崎弘道	-	
	1911年3月5、6日	神学校	-	石黒猛次郎 (同胞教会牧師)	「実地神学」	
	3月15日	-	-	リチャーズ (布哇ホノルル)	-	
	1911 (明治44) 年度	4月26日	-	公会堂	マクドウエル (米国メソジスト教会監督)	「修養上の四大要素」
		5月8日	-	公会堂	フォート (米国共和党の名士、ニュー・ジャージー州前知事)	-
5月19日		-	神学館	末廣重夫	英米仲裁裁判条約に就て	
5月21日		-	-	万国青年会米国本部幹事 エッデー	-	
		-	公会堂	渋沢栄一、森村市左衛門	-	
5月24日		全校	-	リッジゲート (布哇牧師)	-	
7月12日		-	-	ホワイト (米国ニューヨーク市聖書学校長)	-	
9月19日		専門学校、神学校、女学校高等学部	神学館	シドニー・ウェップ (英国ロンドン大学経済学教授)	「英国に於ける社会問題」	
9月23日		-	公会堂	ジョーダン (米国スタンフォード大学総長)	「経済上より見たる戦争」	
10月8日		-	公会堂	ハミルトン・ホルト (米国インディペンデント雑誌主筆)	「世界の連合」	
10月9日		全校	-		-	
10月11日		-	公会堂	クロス (米国ボストンのオールド・サウス・チャーチ教会副牧師)	-	
10月26日		専門学校	神学館	内藤虎次郎 (湖南) (東京帝国大学教授)	「太平乱に於ける武昌」	
11月20日		-	-	ホフ (米国同胞教会伝道会社幹事)	-	
11月24日		全校 女学校	- -	古谷久綱	「逆境の快感」 「伊藤公の母堂に就て」	

年度	開催日時	対 象	場 所	氏名 () 内は当時の肩書き	講演題もしくはその内容
1911 (明治44) 年度	12月4日	-	公会堂	江原素六 (東京麻布中学校長)	「幕末の脚と奉行板倉氏の実話」
	12月5日	専門学校	-	石橋為之助 (代議士、同志社理事)	「東軍に於ける国際政局」
	12月11日	神学校	-	山室軍平 (日本救世軍大佐)	「日本に於ける救世軍」
	12月12日	女学校	-	-	-
	12月13日	-	公会堂	網島佳吉	-
	1912年 1月16日	女学校	-	徳富猪一郎	「明日の事を思ひ煩ふ勿れ」
	2月26日	-	公会堂	セイイス (英国オックスフォード大学教授)	「バビロン、埃及における 廃趾発掘の実験など」
		神学校	-	佐伯好郎 (早稲田大学講師)	「景教碑研究」
	2月28日～ 3月1日	神学校	-	川中勘之助	「旧約書に於ける批評学 及其近況」
	2月29日	-	公会堂	丹波清次郎	-
3月8日	女学校専門学 部5年生以上	-	松本亦太郎 (女学校専門学部 評議員長)	「社会の進歩と女子の地位、 家庭の趣味と女子の教育、 女子高等教育機関など」	
1912 (明治45) 年度	4月12日	女学校	-	松浦政泰	-
	4月25日	政治経済部	-	浮田和民	「近世文明史」
	4月26日	政治経済部	-	エバート・グリーン (米国イ リノイ大学歴史部主任教授)	「米国大統領選挙」
	5月8日	大学	-	アーサー・スミス (清国通)	「清国の政治、宗教、教育」
	5月14日	大学	-	トーマス・シー・ホール (ニュートークのユニオン神 学校教授)	「宗教と行為」
	5月15日	大学	-	(ニュートークのユニオン神 学校教授)	「近世哲学の特徴」
	5月17～18日	政治経済部	-	古谷久綱	「維新前15年史」
	6月3日	政治経済部	-	深井英五	「国際金融」
		女学校	-	千葉勇五郎	「受くるよちも与ふるは 幸なり」
	6月8日	女学校専門 学部	-	浮田和民	「過渡時代に於ける婦人」
		政治経済部	-	-	「近世文明史」
	6月17日	神学部	-	露無文治 (今治基督教会牧師)	「スコットランド宗教事情」
		女学校	-	-	「英国人の誠実、勇氣、 博愛」
	6月19日	-	公会堂	エリオット (米国ハーヴァー ド大学名誉総長)	-
	6月22日	-	-	山路愛山 [彌吉]	「日本国民史」
	6月25、26日	大学	-	ダブリウ・デー・マックリン トク (米国シカゴ大学英文学 教授)	「比島の米国政治」、 「沙翁の喜劇」
	9月ごろ	女学校	-	網島佳吉	-
		-	片山猪之吉	-	
		-	片桐鑄太郎	-	
9月18日	大学	-	ホワイト (ニューヨーク聖書 学校校長)	-	
9月28日	大学	-	浮田和民	「西洋文明史論」	
	女学校専門 学部	-	-	「婦人の勇氣」	
9月30日	-	公会堂	ブライアン (駐日米国大使)	-	
10月22日	女学校	-	古谷久綱	維新史	
10月23日	女学校	公会堂	徳富猪一郎	明治天皇の御聖徳に関する 講演	
10月30日	-	公会堂	ウイレット (米国シカゴ大学)	-	

年度	開催日時	対 象	場 所	氏名 () 内は当時の肩書き	講演題もしくはその内容	
1912 (明治45) 年度	11月1日	-	公会堂	ピアード (支那福州学院長)	-	
	11月12日	普通学校	-	エス・デー・ゴードン (宗教問題に関する著書で著名)	-	
	11月13日	大学	-	エス・デー・ゴードン	-	
	11月26日	女学校	-	古谷久綱	「幕末15年史」	
		女学校	-	巖谷小波	御伽話 (動物虐待、兄弟の交)	
	11月30日、 12月14日	政治経済部	-	浮田和民	「西洋文明史論」	
	12月2日	神学部	-	宮川経輝	「300年前に於ける天主教伝道の概況」	
	12月3日				「60年来の新教伝道の大観」	
	1913年 1月11日	大学	-	徳富猪一郎	「最進英国政局史論」	
	1月22、23日	-	神学館	上田只一	「軌近心理学の概況」	
	1月29日	神学部	-	ジョセフ・コーサンド (同胞教会宣教師)	「東洋の陰陽」	
	1月30日				「西洋の二元」	
	1月31日				「印度の哲学と東洋の宗教」	
	2月3日				「仁愛慈想」	
	2月4日				「武士道と犠牲」	
	2月5日				「基督と人類」	
	2月8日	-	-	浮田和民	「西洋文明史」	
		女学校	-	綱島佳吉	宗教上の講話	
	2月10日	-	-	シャノン (南洋ギルボルド島で伝道)	「南洋ギルボルドに於ける伝道の状況」	
	2月15日	-	-	フレッドスミス (米国の男子及宗教前進運動の主導者)	-	
	2月19日	-	-	山路愛山 (彌吉)	「日本国民史」	
	3月1、 3、5日	-	神学館	ハミルトン・ライト・メービー (日米交換講師)	米国民の理想性格及生活 - 「人種の背景」(1日)、 「米国の中等及高等教育」 (3日)、「米国及其政府」 (5日)	
	3月2日	-	神学館	シー・ピー・ヘンダーソン	英語説教	
	3月4日	大学	-	(米国シカゴ大学社会学教授)	「経済的事実と社会的運動」	
	3月5日	-	-	ワレース (支那西部連合基督教大学幹事)	-	
	3月7日	大学	-	ヤコビー (独逸ゲッティンゲン大学哲学教授)	精神的教育一般	
	3月8日	-	-	浮田和民	「西洋文明史論」	
	来校時	政治経済部	-	徳富猪一郎	新島先生、明治天皇、英国議会弁論の変遷等	
	1913 (大正2) 年度	4月15、16日	政治経済部	-	古谷久綱	「維新前15年史」
		4月16日	女学校	-		「幕末15年史」
4月17日		女学校	-		「幕末15年史」、家政上の心得に関する講演	
4月26日		-	公会堂	都築甚之助 (陸軍一等軍医正)	「脚気予防法」	
		政治経済部	-	浮田和民	「西洋文明史論」	
5月12、13日		-	神学館	ビーボデー (米国ハーヴァード大学名誉教授)	「耶穌の社会的教訓の原理」	
5月13日		-			「耶穌の社会的教訓の応用」	
5月19日		神学部	神学館	内ヶ崎作三郎 (早稲田大学教授)	「英国の大学生活」	
6月以後 毎学期1回		政治経済部	-	山路彌吉 (愛山)	「日本国民史」	
6月22日		女学校	-	宮崎光子 (新真婦人社)	「修養上宗教の必要」	
6月23日	女学校	-	新渡戸稲造	「常識」		

年度	開催日時	対象	場所	氏名（）内は当時の肩書き	講演題もしくはその内容
1913 (大正2) 年度	9月14日	女学校	日曜学校	ファザー・ケリー	-
	9月15日	女学校	-	渡邊常子(日本女子伝道会長)	-
	9月20日	大学	-	厨川白村〔辰夫〕	「英文学概論」
	9月23日	政治経済部	神学館	市原盛宏(朝鮮銀行総裁)	朝鮮談
	9月27日	-	大学講堂	浮田和民	「西洋文明史論中の近世史」
	10月11日	大学	-	厨川白村〔辰夫〕	「英国古代の文学」
	10月13日	神学部	神学館	ブラットナー(米国ハーヴァード大学アンドーヴァー神学校教会歴史教授)	「歴史上の勢力としての福音」
	10月14日	-	-	-	「現在の生活と福音」
	11月14、15日	政治経済部	-	三宅驥一	「進化論」
	11月20日	神学部	-	宮川経輝	「宗教家の資格」
	11月29日	神学部	-	網島佳吉	「日米問題」
	12月6日	女学校	-	救世軍の一ノ宮夫人と高木夫人	求道者のための訓話
	1914年	女学校	-	松本亦太郎	-
	1月23日	-	-	-	-
	1月24日	-	-	浮田和民	-
	2月6日	女学校	-	宮川経輝	修養法について
	2月14日	-	-	山路愛山〔彌吉〕	-
	2月18日	女学校	-	金森通倫(救世軍)	-
	2月19日	普通学校	-	山室軍平	故石井十次の事について
	3月5日	全校	-	-	大阪の徒歩主義者濱谷理吉郎の実験談
3月10日	女学校	-	平岩愼保(日本メソジスト監督)	-	
3月11日	女学校	-	ハーヴィー(印度マドラス)	女子教育に関して	
1914 (大正3) 年度	4月11日、5月16日、6月13日	大学	致遠館	厨川白村〔辰夫〕	「詩人プラウニング研究」(第1～3回)
	4月25日	大学	致遠館	浮田和民	「歴史上より見たる世界現今の大勢」
	4月27、28日	神学部	-	ハーバート・ケレー(英国ケラム神学院創設者・教授 東京聖公会神学院で授業中)	「近世神学の理想及要求」
	5月1日	普通学校	-	ウエスタベルト(布哇)	-
		女学校専門学部	-	松本亦太郎	-
	5月2日	大学	致遠館	上田敏	「現代英文学」
	5月9日	大学	致遠館	山路愛山〔彌吉〕	「日本国民史」
	5月23日	大学	致遠館	浮田和民	「新教育の方針」
	5月28日	女学校	-	ウエスターヴェルト(布哇キヤッスル家)	-
	5月30日	大学	致遠館	栗原基	「ウオズウオスの宗教思想」
		女学校	-	松本亦太郎	心理学講演
	6月6日	大学	致遠館	三宅驥一	「ユーゼニックスに就て」
	6月10日	神学部	神学館	桑木巖翼	「哲学と宗教」
	6月13日	全校	-	洪澤栄一	「支那漫遊談」
	6月20日	大学	致遠館	浮田和民	「世界に於ける日本の位置」
	6月26日	神学部	神学館	エー・シー・ヘドラム(英国ロンドン大学キングス・カレッジ教授)	「新訳聖書批評」
	9月26日	-	大学講堂	浮田和民	「欧州大戦乱の原因」
9月27日	女学校	-	松本亦太郎	「東西両京女学生の境遇比較」	
	女学校専門学部	-	-	「精神的物理的作用」	

年度	開催日時	対 象	場 所	氏名（）内は当時の肩書き	講演題もしくはその内容
1914 (大正3) 年度	10月3日	政治経済部 女学校専門 学部	大学講堂 -	蛭川新 松本亦太郎	「中国立の現状に就て」 「書論」
	10月9日	-	-	海老名弾正	信仰の必要に関して
	10月14日	学生	-	徳富猪一郎	-
	10月15日	-	神学館	渡瀬常吉	朝鮮伝道について
	10月23日	女学校	-	セジュレー	体操術伝授
	10月24日	女学校専門 学部	-	松本亦太郎	心理学
	10月26日	女学校	-	ガウチャー（世界宣教会 継続委員教育部長）	-
	11月2日	普通学校	-	マップ（救世軍司令官少将）	-
	11月5日	女学校 女学校	- -	天野梅可 松本亦太郎	勤儉貯蓄談 心理学講演
	11月6日	- 女学校	公会堂 -	後藤新平	故山崎為徳との関係 「女の心得に就て」
	11月7日	普通学校 -	- 公会堂		- -
	11月12日	神学部 普通学校	神学館 -		ダブル・シ・アレン（米国カ リフォルニア州平和協会会頭）
	11月13日	女学校	-	-	「基督教と婦人に就て」
	11月14、15日	-	大学講堂	三宅驥一	進化論
	11月17日	女学校	-	山室軍平	「神之摂理」
	11月19日	女学校	-	山田 潤	「書法」
	11月20日	神学生	-	宮川経輝	「宗教家の資格」
	11月21日	女学校 政治経済部 女学校	- - -	- 新渡戸稻造 松本亦太郎	「囚われたる女」 「貨幣の起源」 日本画審査の真理について
	11月27日	-	公会堂	大隈重信	-
	11月28日	女学校	-	松本亦太郎	文部省展覧会の日本画に ついて
	11月29日	女学校	-	網島佳吉	-
	11月30日	学生有志	神学館	-	「排日問題に関し渡米の 決心を為したる動機及目的」
	12月3日	-	-	ミラー（米国桑港メソジスト 教会牧師）	-
	12月4日	女学校	-	向後謙吉	パン製法の講習
	1915年 1月27日	女学校	-	バクストン	聖書講演
	2月5日	神学部	-	留岡幸助	「実験的牧会学」
	2月13日	-	公会堂	マシウス（米国基督教同盟会 会頭、米国シカゴ大学神学部長）	「教育の理想」
		-	-	宮川経輝	-
	2月17日	政治経済部 女学校	神学館 -	松尾音次郎（農商務省嘱託） バクストン	「露領重細重」 -
	2月20日	-	大学講堂	浮田和民	「国民の政治的教育」
	2月26日	女学校専門 学部	-	松本亦太郎	「日本画分類に就て」
	3月	女学校専門 学部	-	大和和キヨ子（前奈良女子高 等師範学校教授家事科主任）	家事の特別講義
	3月6日	-	大学講堂	浮田和民	「世界歴史の真意義」
3月10日	女学校	-	バクストン	-	
4月21日	女学校	-	エルキントン	幻灯〔映写機〕を使って 欧州風景を撮影	
1915 (大正4) 年度	4月23日	女学校	-	メーソン（英国）	-

年度	開催日時	対 象	場 所	氏名（）内は当時の肩書き	講演題もしくはその内容
1915 (大正4) 年度	4月24日	-	大学講堂	浮田和民	「人生と戦争」
	4月30日	女学校	-	松本亦太郎	「日本人の美術趣味」
	5月3日	女学校	-	ミセス・セベランス（米国）、 平岩愷保	-
	5月4日	女学校	-	新渡戸稲造、根本代議士	-
	5月6日	女学校	-	金森通倫	-
	5月10日	神学生 女学校	神学館	井深梶之助（明治学院総理）	- -
	5月21日	女学校	-	松本亦太郎	「疲労に就て」
	5月26~27日	女学校	-	バクストン	-
	5月29日	-	大学講堂	浮田和民	「支那の将来に対する責任」
	6月7日	神学部	神学館	宮川経輝	「説教の構成」
	6月8日	女学校	-		「説教と説教者」 「感化の源泉」
	6月9日	女学校	-	木村（牧師）	-
	6月10日			露無文治	- 「救主としての基督」
	6月11日			武田（牧師）	-
	6月16日	政治経済部	-	古谷久綱（代議士）	「第三十六議会に就て」
	6月19日	-	大学講堂	浮田和民	「ワーテルロー大戦に就て」
	6月21日	女学校	-	ドラ・ファイユ伯爵（ベルギー公使）	「独逸軍の暴虐と白耳義国民の窮状」
		女学校	-	松本亦太郎	「生命の危機」
	6月21日	普通学校	公会堂	ドラ・ファイユ伯爵（ベルギー公使）	「白耳義国家の位地及び同国の近状」
	6月26日	女学校専門学部	-	大多和清子	家事上の特別講話
	9月25日	-	大学講堂	浮田和民	「現代文明と理想の進化」
		女学校専門学部	-	松本亦太郎	「智的才能の遺伝」
		女学校	-	テラー（米国基督教青年会幹事）	女子教育談
	10月6日	女学校	-	バクストン	-
		女学校専門学部	-		聖書に関する特別講義
	10月9日	女学校	-	栗原基（第三高等学校教授）	南洋視察談
	10月15日	女学校	-	野口英世（紐育ロックフェラー研究所）	日米関係及び同志社の特色など
	10月23日	政治経済部	-	山路彌吉〔愛山〕	「日本国民史」
	10月30日	女学校	-	向（歯科医学士）	幻燈を使った歯科衛生に関する講話
	11月1日	女学校専門学部	-	高野重三	「生物界に於ける女性の地位」
	11月2日	女学校	-	大塚素	満州について
	11月15日	女学校	-	山室軍平	「人生の旅途」
11月17日	-	公会堂	徳富猪一郎	「徳川時代以来の詩文の変遷」	
	女学校	-	新渡戸稲造	友情について	
11月20日	大学	-	浮田和民	「ルーソー及びバックル比較研究」	
	大学予科生	-		「日本の対世界的政策」	
11月22日	女学校	-	高木兼寛	衛生講話	
12月16日	女学校	-	露無文治	-	

年度	開催日時	対象	場所	氏名（）内は当時の肩書き	講演題もしくはその内容
1915 (大正4) 年度	1916年 1月22日	大学本科	-	浮田和民	「エドモンド・バルクの政治学研究法」、「国民性と国民的理想の戦争」
		女学校	-	松本亦太郎	「優種学に就て」
	1月25日	女学校	-	岡本米藏（米国ニューヨーク	「母の愛」
		-	公会堂	土地建物株式会社社長)	「三教科五科目」「海外飛雄」
	2月3日	女学校	-	バクストン	-
	2月12日	政治経済部	大学講堂	福田徳三	「経済学の科学的性質」
	2月16日	女学校	-	セーラー（米国コロンビア大 学師範部教授）	-
	2月24日	女学校普通 学部	-	大江スミ子（東京女子高等師 範学校教授）	家事上の心得についての 講話
	3月4日	女学校	-	松本亦太郎	「筆蹟鑑賞の心理」
	3月8日	-	公会堂	クラーク（万国基督教共励会長）	-
1916 (大正5) 年度	4月14日	女学校	-	三宅驥一	獨逸人についての所感
	4月20、 21、24日	大学	神学館	ウィリアム・アダムズ・ブラ ウン（米国ユニオン神学校組 織神学教授）	「基督教の有効性」
	5月4日	女学校	-	カンタラージャ（印度マイソ ール国王義弟）	-
	5月17日	大学	大学講堂	津村秀松	「日本経済学研究者に望む」
	5月20日	大学	大学講堂	山路彌吉〔愛山〕	「日本民政史要領」
	5月23日	大学	神学館	マッシー（コロンビア大学経 済科教授）	「日米の親交に就て」
	5月27日	大学	大学講堂	大賀壽吉	「ダンテ序論」
	6月2日	-	大学講堂	浮田和民	「大正革新と青年の前途」
	6月10日	大学	大学講堂	濱田耕作（京都帝国大学文科 大学助教授）	「希臘文明の起源に就て」
	6月19日	女学校専門 学部	-	安部（牧師）	山上垂訓に関する特別講話
	6月22日	女学校	-	松本亦太郎	「統計上より見たる抜群の 女子」
	9月11日	女学校	-	向軍治（東京慶應〔義塾〕大 学教授）	羅馬字に関する講演
	9月19日	女学校	-	青木兒	-
	10月6日	女学校	-	露無文治	-
	10月7日	女学校	-	杉田潮	-
	10月9日	大学	-	海老名弾正	「人格の根本義」
		女学校	-	山本忠美	-
	10月28日	-	大学講堂	浮田和民	「欧州大戦の教訓」
	10月31日	女学校	-	新渡戸稲造	「国家に対する真心」
	11月1日	女学校	-	安部磯雄	「婦人の教育に就て」
	11月10日	女学校	-	山室軍平	「神と人との関係」
	11月11日	-	大学講堂	滝本教授	「経済学説に於けるカー イラル及ラスキンの思想」
	11月13日	大学	-	齊藤勇（東京帝国大学文科講師）	「ブラウニングの希臘思潮」
	11月17日	女学校	-	内ヶ崎作三郎	「戦後の婦人問題」
		大学部学生	公会堂		「性欲問題と青春の危機」
		女学校	-		「欧州戦争の女子に及ぼ す影響」
11月18日	-	致遠館	大賀壽吉	「ダンテ神曲総論」	
11月24日	-	大学講堂	狩野直喜（京都帝国大学）	「支那近世の経学」	
11月25日	-	大学講堂	山路彌吉〔愛山〕	「日本歴史と世界の歴史」	

年度	開催日時	対象	場所	氏名（）内は当時の肩書き	講演題もしくはその内容
1916 (大正5) 年度	11月30日	中学部	-	メーナード・ウィリアムス	-
		女学校	-	(米国クリスチャン・ヘラルド特派員)	「女権拡張と女子の特性」
	12月4日	女学校	-	河合道子	「女子の修養」
	12月7日	大学	致遠館	上谷續 (大阪商船会社神戸支店長)	濠洲及北米漫遊談
	12月9日	女学校	-	松本亦太郎	「文展に出たる日本画に関する批評」
	1917年 1月12日		-		「信仰の真理」
	1月18日	女学校	-	スチンソン (米国女飛行家)	飛行談
	1月22日	大学、中学	-		飛行実験談
	2月3日	女学校	-	松本雅太郎	「朝鮮の女子教育」
	2月23日	大学	-	神谷卓男	「代議士選挙候補者としての所感」
	2月24日	大学本科	大学講堂	浮田和民	「独逸流の国家観と英国流の国家観」
		大学予科			「欧州大戦の効果」
	2月26日	中学	-	ブリッジマン (南亜の宣教師、	「南亜伝道上の所感」
	3月1日	女学校	-	J. D. デイヴィスの女婚)	「亜米利加人の生活及び其教化」
3月20日	女学校	家政館	新渡戸稲造	修養に関して	
4月19日	女学校	-	ツウィング (米国)	-	
4月24日	女学校	-	藤村トヨ (私立東京音楽体操学校長)	-	
5月7日	女学校	-	炭谷小梅	-	
5月9日	大学予科	大学講堂	増島六一郎	「大学科に入る中学生」	
5月16日	-	公会堂	デー (露国基督教青年会捕虜部主任)	「露国の革命」	
5月18日	女学校	-	ジョンソン (印度在住宣教師)	印度人の風俗に関する講話	
5月18日以降 週1回開催	女学校	-	栗原基 (第三高等学校教授)	英文学に関する特別講演	
5月19日	-	致遠館	大賀壽吉	「神曲の煉獄天国に就て」	
5月31日	大学本科	-	浮田和民	「世界と日本の国体」	
	大学予科			「総選挙の回顧と憲法の将来」	
6月9日	大学、中学	公会堂	三宅雪嶺 [雄二郎]	「カーライルに就て」	
6月16日	大学、中学	公会堂	大島虎毅 (陸軍大佐)	「新島先生に就て」	
7月2日	中学生	公会堂	松波仁一郎 (東京帝国大学)	-	
	女学校	-		-	
10月6日	大学	大会講堂	厨川白村 [辰夫]	「人生と文学」	
10月9日	大学	大会講堂	内村鑑三	「カーライルの研究に就て」	
10月26日	女学校	女子青年会	佐伯好郎	「宗教衛生」	
11月3日、 12月1日	大学	大学講堂	木村徳蔵 (神戸女学院教授)	「進化と人生」	
11月8日	-	公会堂	エドワード・クラーク (京都帝国大学講師)	「ケンブリッジ大学生生活」	
11月9日	大学、中学	公会堂	古谷久綱	支那漫遊談	
11月12日	大学	公会堂	厨川白村 [辰夫]	「創作と鑑賞」	
11月17日	大学	予科講堂	大賀壽吉	ダンテ講演	
	女学校	女子青年会	廣岡浅子	「基督と婦人」	
11月26日	-	神学校	ブランクス	英文名篇の朗読会	
12月2日	-	公会堂	ウイリヤム・ハーデー (ペリー提督来航の際の水夫)	回顧談	

年度	開催日時	対象	場所	氏名()内は当時の肩書き	講演題もしくはその内容
1917 (大正6) 年度	1918年 1月11日	女学校	-	ベテ-	アメリカの状況について
	1月17日	女学校	-	露無文治	-
	2月26日	大学	公会堂	目賀田種太郎	「戦時の米国」
	3月1日	女学校	-	大森房吉(地震学の泰斗)	本邦の地震に関して
	3月7日	大学	-	大道良太(西武鉄道管理局長)	「支那鉄道に就て」
	3月9日	大学	公会堂	崎山比左衛(東洋殖民学校創設者) 永井柳太郎(前早稲田大学教授)	南米旅行談 同志社在学中の懐旧談から説き起した日本民族発展の形勢について
1918 (大正7) 年度	4月26日	女学校	-	田村作太郎(京都第二高等小学校校長)	米国視察談
	5月9日	女学校	-	鈴木、新井(日本歯科医学専門学校教授)	歯の衛生に関する講演
	5月14日 2回	大学、中学	公会堂	山室軍平	精神講話
	5月18日	大学	神学館	大賀壽吉	「ダンテ講演」
	5月25日	大学予科 大学	-	浮田和民	「世界平和と進歩」 「立憲政治の根本義」
	5月29日	大学、中学	公会堂	ダニエル(ベルシャの基督者、土耳古人の虐殺を免れた亡命者)	「ベルシャ人の惨状に就て」
	5月31日	大学、中学	公会堂	ダオナー(米国ミネソタ大学前理科学部長)	「天文学に就て」
	6月5日	女学校	-	三谷(東京女子学院学監)	-
	6月8日	女学校	-	ローランド(札幌)	-
	6月17~19日 3回	大学	-	吉野作造(東京帝国大学ヘボン講座担任教授)	「日本と米国」
	7月2日	女学校	-	エディ(米国青年会幹事)	-
	9月13日	女学校	-	濱田耕作(帝大文科教授)	歴史に関する講演
	9月16日	大学	神学館	サンダース(前エール大学神学部教頭)	「ヘブライ宗教史大観」、 「宗教の新解釈を与えたる半世紀及預言者エレミヤの宗教思想に対する貢献」
	9月19日	女学校	-	青柳榮司(京都帝国大学)	欧米視察談
	9月30日	大学	神学館	小松緑(前朝鮮総督府外事課長、現中外新論社長)	「朝鮮併合の真意義」
	10月21~ 10月29日	大学	-	有島武郎	芸術論8回講演
	10月22日	大学	-	朝河貫一(米国エール大学助教授)	「米国参戦の事情」
	10月31日	女学校	ジェームズ館		「美しき霊」
	11月25日	女学校	-	フォーブス	-
	1919年 1月31日	-	神学館	ブックマン(ハートフォード 神学校教授)	「個人伝道に就て」
2月6日	-	公会堂	海老名弾正	渡欧のため袂別演説	
	女学校	-	海老名みや	-	
2月17日	大学、中学	公会堂	吉野作造	「デモクラシーと我国体」	
3月8日	女学校	-	符松友(支那南軍大隊長)	周瑾女史に関して	
4月17日	女学校	-	ファーネス(米国ヴァッサー 女子大学)	通俗天文学に就て	
1919 (大正8) 年度	4月26日、 5月3、17日 3回	-	致遠館	佐藤清(関西学院教授)	「愛欄文芸復興詩人」
	4月29日	女学校	-	ロバート・リンチ(桑港商業 会議所副会頭)	「国際親善」

年度	開催日時	対 象	場 所	氏名（）内は当時の肩書き	講演題もしくはその内容
1919 (大正8) 年度	4月29日より 5月21日 毎週火・水 曜日	-	致遠館	有島武郎	「芸術論及ホイットマン」
	5月16日	女学校	-	スタッフオード（米国女子青年会日本視察員）	「米国に於ける愛国娘子女会の趣旨」
	5月19日 5月20日 5月21日	大学	-	富永徳磨（東京駒込基督教会牧師）	「予が信ずる宗教」 「基督教と生活」 「基督教と今日の学問」
	5月21日	女学校英文科 及び家政科	-		-
	5月22日	全校	-		-
		女学校	-		「神の内存在」
	5月23日		-		「貴き自覚」
	5月24日	中学	-		「十字架の教」
	5月28日	大学、中学	公会堂	マンロー（在横浜の考古学者）	「日本人種の起源」幻燈を使用
	5月29日	全校	公会堂	福田徳三	「国際労働法規の労働非商主義に就て」
	5月31日	全校	公会堂	留岡幸助	「実験より見たる我神」
	6月5日より 6月10日 6回	大学	致遠館	柳宗悦	「新神秘論」
	6月26日	女学校	-	渡邊常子	米国の視察談
	9月11日	-	神学館	賀川豊彦	社会問題研究について
	10月6日	大学	公会堂	吉野作造	「国家生活に於ける宗教の使命」
	10月8日	大学予科 大学本科	公会堂	加藤直士	「平和会議見聞」 「血の洗礼」
	10月13日	全校 女学校	公会堂	山室軍平	「救世済民の根本義」 「神我と偕に在り」
	10月25日	大学	-	生田長江	「社会問題研究に就て」
		大学	-	堺枯川	
	11月1日	女学校	-	大橋房子	-
	11月3日	大学	-	クロース	「現代神学研究の態度」
	11月3～18日 6回	大学	-	有島武郎	イブセンを中心とする北欧文学について
	11月7日	大学	-	ウッズ（米国ボストンの社会救済家、アーモスト大学理事）	英米に於ける社会事業について
	11月10日	女学校	-	丹波清次郎	-
	11月11日	女学校	-	ギルマン	-
	11月16日	女学校	-	ドミニヤル夫妻（東京聖心女学校教授）	「宇宙音楽」（ミュージック・コスミック）についての講説と演奏
	1920年 2月9日	-	神学館	清水安三	支那の現状に就て
	2月12日	女学校	雨天体操場	米沢尚三	-
	2月20日	-	致遠館	永田伸也	「ギッディングスの社会の観念」
		-		黒川（講師）	「スミスの社会階級観」
	2月21日	-	予科講堂	佐々木惣一	「森戸助教授事件の法律的解释」
	3月16日	女学校	-	海老名みや	基督教講話
3月18日	女学校	-	清水安三	支那に関する宗教所感	

年度	開催日時	対象	場所	氏名（）内は当時の肩書き	講演題もしくはその内容
1920 (大正9) 年度	4月14日	女学校	-	王立明(中華民国基督教女子節制会幹)	-
	4月17日	女学校	-	綱島佳吉	新島襄の精神から見た同志社の基礎について
	4月19日	女学校	-	マッコルミット(米国)	欧州大戦後の女子の職業について
	5月3～19日 6回	大学	-	有島武郎	イブセンを中心とする北欧文学について
	5月8日	女学校	-	ヴァンダーリップ夫人(米国実業家団団長)	「女子教育の必要及び女権拡張の意義」
	5月10日	大学	公会堂	山本唯三郎	自分の経歴談及支那問題について
		女学校	-	マコーズランド(米国パッファロー)	-
	5月11日	女学校	-	プリンプトン(米国アモスト大学学生)	-
	5月12, 14, 27日	-	神学館	サンダース(英国ケンブリッジ大学教授)	「佛教」
	5月20日	-	神学館	野口米次郎(慶應義塾大学教授)	「最近に於ける英語国民文芸中心の移動」
	6月18日	大学	致遠館	松尾音次郎(京都商業会議所書記長)	「最近西比利亞事情」
	9月24日	大学	致遠館	海野幸徳(京都府社会課嘱託)	「現代の社会問題と基督教」
	10月18日	女学校	-	スラッター(世界日曜学校大会列席者)	「十年後の将来」
	10月25日	女学校	-	奥村多喜衛	日米問題と布哇の現状について
	10月26日	女学校	-	ハワード(アルゼンチン共和国宣教師)	正実の行為について
	11月6日	女学校	-	エドガー(蛇奈加)	「奮闘努力」
	11月18日	女学校	-	畠中博(牧師)	朝鮮傳道の急務並に支那飢饉の概況について
	11月19日	大学	公会堂	田川大吉郎(代議士)	「国際連盟」
	1921年 1月8日	中学	公会堂	末光績	「信仰の出発点」
	2月20日	大学	公会堂	尾崎行雄	軍備制限に関する講演会
1921 (大正10) 年度	4月13～28日 6回	大学	致遠館	有島武郎	「パイロンに就て」
	4月26日	大学	公会堂	吉野作造	「猶太人の世界顛覆陰謀説に就て」
	4月27日	大学	神学館	田川大吉郎(衆議院議員)	「最近の外交問題」
		女学校	-	木村清松	-
	5月28日	中学	-		「神の人」
		大学	公会堂		「国際連盟理事会及英国議会见物を中心として」
	5月29日	女学校	-		-
	5月30日	女学校	-		-
	6月11日	中学	-	賀川豊彦	「精神生活の発展」
	6月16日	大学、中学	-	西村伊作(文化学院設立者)	「生活の設計者」
	6月23、24日	女学校	-	リチャード夫妻(米国トリード)	パレスタイン、印度ビルマの旅行談
	7月5日	女学校	-	スミス	米国女学校生活の特色について
	9月17～20日 3回	大学	-	ダツチャー(ウエスレイヤン大学教授)	国際政治の基礎(政治、経済、倫理)について

年度	開催日時	対象	場所	氏名()内は当時の肩書き	講演題もしくはその内容
1921 (大正10) 年度	9月21日	女学校	-	ダッチャー	-
	9月21日	大学、中学	-	加藤直士(大阪毎日新聞記者)	東宮殿下欧州ご見学に関する講話(巴里会議より華府会議まで)
		-	公会堂		「巴里会議より華府会議まで」
	9月29日	女学校	-	木村清松	-
	10月1日	女学校	-	松井文彌	-
	10月5日	女学校	-	パイダ(米国テキサス大学生理学教授)	社会衛生に於ける女子の務めについて
	10月10日	女学校	-	セービン	ラヂウムの発見に就て講話
	10月10日～11月7日 毎週1回、計4回	女学校専門学部	-	末廣重雄(京都帝国大学教授)	戦後の国際問題について
	10月18日	大学	神学部	清水安三	「最近支那に於ける思想の傾向」
	10月21日	大学	公会堂	内ヶ崎作三郎(早稲田大学教授)	「華府会議と太平洋の将来」
	10月26日～11月1日 4回	-	-	阿部次郎(慶応義塾大学)	「フアストとメイフイスト」
	10月28日～11月11日 3回	-	-	山本一清(京都大学助教授)	「アインシュタイン相対性原理解説」
	11月2日	女学校	-	千葉豊治(日米関係調査会主幹)	「婦人の国際的奉仕」
	11月3日	大学、中学	-		「最近の日米関係」
	11月7、8日	-	-	江本翼(貴族院議員)	「軍備問題、労働問題」
	11月9日	全校	-	バートン(米国伝道会社総幹事)	-
	11月12日	-	-	吉野作造	「国際関係の支配する二種の思想」
	12月1日	女学校	-	武田(彦根基督教会)	-
	1922年 1月16日	中学	寄宿舎	吉田清太郎	信仰奨励の為め講話
	1月14日	中学	-		-
1月21日	中学	-	賀川豊彦	「宗教と幸福」	
	女学校	-		宗教講話	
2月14、21日	大学神学科	-	リーズ・ギューリック	Social Work in Religions Education	
2月20日	女学校	-	中村久栄	生活改善整容について	
2月21日	女学校	-	宇佐川政輝	世界一周と国家観について	
2月22日	大学	-	リンコロン・ウハルト(米国)	「近東事情」	
1922 (大正11) 年度	4月18日	大学	公会堂	小林正直(同志社理事)	「大戦後の歐洲経済事情」
	5月1日	大学神学部	-	安田忠吉	「牧会生活の喜び」
	5月13日	女学校	-	江馬務	葬祭について
	6月1日	神学部	-	コールマン(日本日曜学校連盟幹事)	日曜学校の方法について
	6月16日	大学神学部	神学館	矢部喜好(牧師)	「滋賀県下SSに就て」
	9月12日	大学本科	致遠館	ガーナー(イリノイ大学教授)	「国際的地位に就て」
		大学予科	公会堂	デー・エザー(米国伝道会社派遣員)	「日米親善の新曙光」
	9月12日	中学	-		「人格の基礎」
	9月18日	大学	神学館	米澤尚三(神戸教会牧師)	「改造期の欧米所観」
	9月19日	大学、中学	公会堂	松尾音治郎(京都商業会議所書記長)	節約宣伝の理由について
9月23日	中学	-		「節約」	
10月8日	大学	公会堂	エー・エル・デキーン(布哇大学総長)	「布哇に於ける日本人問題」	

年度	開催日時	対象	場所	氏名()内は当時の肩書き	講演題もしくはその内容	
1922 (大正11) 年度	10月10、13、18、20、24日 5回	大学文学部	神学館	富田碎花	「詩の愛蘭」	
	10月13日	女学校	-	額賀鹿之助(東京番町教会)	信仰上の講話	
	10月16日	大学神学部	-	西尾幸太郎	「伝道所感」	
		大学神学科	-	平田義道	「内なる迫害」	
	10月23日	大学	-	有島武郎	「創造の芸術」	
	10月25、27日	大学文学部	神学館		「階級意識と芸術の問題」	
	11月15日～17日 3回	大学神学部	-	渡瀬常吉	「新時代の活倫理と恋愛問題」	
	11月24日	女学校	-	塚本はま子	家庭経済に関して	
	12月4日	大学神学部	-	今泉眞幸	「教会所感」	
	12月11日	大学神学部	-	平田義道	「内なる迫害」	
	1923年 1月13日	中学	-	西村節子	支那揚子江横断に関して	
	1月17日	大学神学科	-	上野義一	「大阪市に於ける社会事業」	
	1月29日	大学神学部、 神学科	-	鈴木浩二	「教会実験譚」	
	2月6日	大学、女学校 校専門学部	公会堂	エチ・エチ(エム)・ゴーエン (米国ワシントン大学教授)	「東洋と西洋と」	
	2月12日	大学神学部	-	芹野與太郎(浪華教会牧師)	「教会の苦心」	
	3月6日	大学、女学校 校専門学部	公会堂	シドニー・L.ギユリツキ	「戦争撲滅の新運動」	
		女学校	-		「平和主義」	
	1923 (大正12) 年度	4月23日、 5月1日	-	-	西山教充(同志社理事)	労働争議実見及所感に関する講話
		5月14日	女学校	-	大橋(講師)	牛痘の発見者ゼンナーが子息に種痘を試験した概要について
5月29日		大学部	-	田中金造	「南洋状況」	
6月11、12日		大学部	-	竹友虎雄(東京高等師範学校教授)	「批評の原則」	
6月11日		大学部	-	米澤尚三	「伝道所感」	
9月17日		女学部	-	武田五一	「震災と建築」	
10月6日		大学部及女 学部	-	ジョン・デー・ライト(アーモスト大学出身、盲啞教育の世界的権威)	盲啞教育について	
10月16日		大学予科	-		-	
11月16日		女学校	-	長谷川敏(神戸雲内教会)	-	
11月20日		女学校	-	河井道子(日本女子青年会総幹事)	-	
1924年 1月24日		女学校	-	山室軍平	-	
1月25日		女学部	-	前米国大統領ルーズウエルト夫人	社会奉仕について	
1月29日		神学部	-	ゼー・エム・コールター (シカゴ大学教授)	「進化の意義」	
2月12日		神学部	-	矢部喜好	「田舎伝道者の苦杯」	
2月15日		専門学校 高等商業部	-	秋守常太郎	「土地国有論」	
2月18日		神学部	-	今泉眞幸	「伝道生活の靈感」	
2月23日		中学	-	西山理事	「アマスト大学を訪ふ」	
2月2日		女学校	-	渡邊常子(婦人伝道会委員長)	「修養談」	
3月4日		女学部	-	武用種吉(京都市立第二高等女学校長)	「歐洲漫遊談」	

年度	開催日時	対象	場所	氏名（）内は当時の肩書き	講演題もしくはその内容
1924 (大正13) 年度	4月28日	大学神学科	-	西尾幸太郎	「伝道所感」
	5月3日	中学	-	西村節子	「運動に就ての所感」
	5月7日	大学	-	原田健	「国際連盟に於ける日本の地位」
	5月29日	専門学校 高等商業部	-	小林正直	「我国の石炭と経済界」
	6月3日	大学神学科	神学館	河村幹雄（九州大学教授）	「思想問題管見」
	6月13日	大学	-	K. C. Leebrick（布哇大学 政治学教授）	「最近の日米問題」
	6月18、19日	大学	-	J. B. Pratt（ウィリアムズ 大学教授）	自我の道徳的問題
	7月17、18日	女学校	-	奥太一郎（東京女子大教授）	ダルトンプランについて
	9月18日	女学校	-	Mrs Anders（英国）	神に関する観念について
	9月20日	中学	-	原忠雄（岡山教会牧師）	「三つの教訓」
			-	高橋健二（杉並教会牧師）	「ソロモンの選択」
	9月23日	女学校	-	久布白落実（婦人矯風会）	-
	9月24日	女学校	-	木村清松	-
	9月25日	中学	-	濱田光雄（天塩教会牧師）	「宗教生活と学生生活」
		女学校	-	和田信一（東京城南教会）	-
	9月27日	中学	-	金子白夢（愛知教会牧師）	「顕はれたる神」
			-	濱田光雄（天塩教会牧師）	「イエスの幼時」
	9月から 各週10回	大学法学部	-	加藤直士	新聞学講義
	10月2日	女学校	-	渡部守成（法典基督教会）	-
	10月6日	女学校	-	林福子	-
	10月7日	大学豫科	-	A. W. Palmer（布哇ホノル ル、セントラル・ユニオン教 会前牧師、シカゴ、オークバ ーク教会牧師）	「眞理と自由」
			-	マナーキン（万国基督教会同 盟会）	-
	10月13日	大学神学科	-	海老澤亮	「伝道者の光栄」
	10月18日	中学	-	今井（西陣教会牧師）	「伝道者推奨のため」
	10月20日	中学	公会堂	服部他之助（学習院教授）	「乃木大将に就て」
	10月21日	女学校	-		「乃木大将（の事跡）に 就て」
	10月22日～ 11月5日 4回	大学文学部 英文科	-	矢野禾積	「世紀末英文学に就て」
10月27日	女学校	-	長阪鑑次郎（神戸女子神学校 教頭）	修養に就て	
11月10日	大学神学科	-	矢部喜好	欧米漫遊談	
11月22日	大学本科	-	加藤直士	「新聞講義」	
11月25日 4回	大学法学部	-	松尾音次郎	日本経済事情について	
12月4日	専門学校 高等商業部	-	増田幸一	「能率問題と其研究方法」	
12月8日	専門学校神 学部	-	渡瀬常吉	「牧会に就て」	
1925年1月 10日	中学上級生	-	安田（同胞教会牧師）	「パウロの真剣味」	

年度	開催日時	対象	場所	氏名（）内は当時の肩書き	講演題もしくはその内容
1924 (大正13) 年度	1月28日	大学、専門学校	公会堂	H. F. Ward (ユニオン神学校社会学教授)	「新ロシアの印象」
	1月29日		神学館		「労農政府と宗教」
	1月30日				「戦争撤廃論」
		大学	公会堂	新渡戸稲造 (国際連盟事務次長)	「国際心」
	1月31日	中学	-	Eliot (シカゴ基督教青年会主事)	「新しき学生の道」
	2月4日	大学、専門学校	神学館	H. F. Ward (ユニオン神学校社会学教授)	「利潤の性質」
		中学	-	柏木義円 (安中教会牧師)	「資本主義の倫理的批判」
	2月5日	大学、専門学校	神学館	H. F. Ward (ユニオン神学校社会学教授)	同志社の過去を想ふて
		中学	-		「社会的濫費の防止」
	2月14日	中学	-	李性直	「日鮮親和のため」
	2月21日	中学	-	ジェンキンス	「日本における印象の教々」
	2月23日	大学神学科	神学館	大澤善助	「伝道と社交」
	3月3日	中学	-	W. E. Barton (シカゴ・オーク・パーク教会前牧師、リンカーン研究者)	「リンカーンに就て」
3月9日	大学神学科	-	大平得三	「衛生問題」	
4月11日	中学	-	海老沢亮 (牧師)	「教育の目的としての正しき態度」	
5月4日	大学神学科	神学館	佐藤藤彦	「ルツターの宗教経験」	
5月6日	大学、専門学校、女学校高等学部	女学校講堂	E. Bancroft (米国大使)	「教育の真髓」	
5月7日	大学法学部	公会堂	長谷川如是閑	「寺院と国家」	
5月9日	中学	-	額賀鹿之助 (牧師)	「神によりて行ふ」	
5月14日	大学神学科	神学館	G. E. Lorenz	「教会音楽と傳道」	
5月27日	大学神学科	致遠館	谷岡勝美	「英国に於ける形式的自由主義の崩壊」	
6月3日	大学神学科	神学館	大塚節治	「佛国に於ける神学教育の状況」	
6月12日	大学神学科	神学館	三田谷啓	児童問題講演	
6月13日	女学校	-	青柳栄司	「禁酒に就て」	
6月17日	女学校	-	松浦有志太郎	「禁酒に就て」	
9月22日	大学豫科	-	G. C. Hunter (米国平和運動代表者)	-	
10月5日	大学神学科	-	大賀壽吉	「ダンテ研究」	
11月4日	中学	-	竹崎八十雄 (熊本大江女学校長)	「同志社を想ふて」	
11月6日	女学校	-	平川 (校医)	虎列刺〔コレラ〕病予防について	
11月9日	全校	-	賀川豊彦	「イエスと良心の宗教」	
11月10日		-		「イエスと良心の芸術」	
	中学	-		「青年よ内なる生活を充たせ」	
11月20日	中学	-	水向啓次郎 (甲陽中学教諭)	「社会の趨勢を見て青年の自覚を促す」	
11月21日	大学神学科	-	網島佳吉	「同志社精神の真髓」	
12月2日	専門学校高等商業部	-	村上蕃	「支那関税会議に就て」	
12月12日	中学	-	岸田 (牧師)	「人格の基礎工事」	
1月31日	中学	神学館	樫葉勇	御伽講演会	
2月15日	女学校	-	三島栄助	「消費節約と乃木大将夫人」	
3月27日	中学	-	高安光三	「口腔衛生に関して」	

年度	開催日時	対象	場所	氏名（）内は当時の肩書き	講演題もしくはその内容
1926 (大正15) 年度	4月15日	全校	-	ロツクウエル・ポッター（アメリカン・ボード社長）	-
	5月4日	-	-	クリピンガー（米国同教協会監督）	「神学生に関して」
	5月14日	大学生	-	井上準之助（子爵）	「現今の外国為替に就いて」
	5月25日	大学予科、 専門学校	公会堂	チャーレス・イー・ジェファソン（米国紐育ブロードウエー ータナバク教会牧師）	「国際的精神に就いて」
	5月26日	女学校	-	-	-
	5月31日	神学生	-	アクシリング（東京バプテ スト教会牧師）	「社会教化と基督教」
	9月11日	-	-	根本牧師	「初めおさらば与へられん」
		-	-	海老澤亮	「神より大事を待ち望み 神の爲に大事を企てよ」
	9月18日	中学	-	多胡寅次郎	「基督に於ける新生活」
	9月30日	-	-	栗原陽太郎	「農村伝道と社会政策」
	10月12日	大学予科	-	ストージ博士	-
	10月13日	-	-	（ハ）ルムス博士	「社会事業に就て」
	10月29日	全校	神学館前庭	ブラムウエル・ブース大将 （教軍軍総司令官）	-
	11月8日	中学	-	吉田清太郎	「人間としての基礎」
	11月14日	神学部	-	高橋徳太郎（東京神学社校長）	「基督者の光栄」
	11月15日	神学部	-	-	「ポーロの信仰」
	11月16日	神学部	-	-	「神の言葉と信仰」
	11月17日	神学部	-	木村清松	「パレスチナ邊遊談」
			-	高橋徳太郎	「現代文明に対する基督教の使命」
		女学校	-	-	「聖き心と熟き信仰」
	11月25日	神学部	-	定方塊石	「聖地旅行談」
	12月1日	中学	-	川島良一（校友）	「欧米歴遊談」
	12月3日	女学校	-	中井宗太郎（専門学部講師）	「帝展に就いて」
	1月10～ 12、15日	中学	チャペル	堀貞一	「造主としての神」（10日）、 「基督の門」（11日）、「ザ アカイよ下り来れ」（12 日）、「同志社精神の三大 起源」（15日）
	1月13～ 14、17日	女学校	-	-	-
	1月18～21日	高等商業部	-	-	-
	1月31日	女学校	-	グリフィス	-
	2月2日	-	公会堂	-	-
	2月5日	中学	-	堀貞一	「旧約の二大人物」
	2月10日	大学生	-	-	宗教講演
2月14日	女学校	-	リチャード（ケンブリッジ大学）	「ワーズワースに就いて」	
2月16日	大学生	致遠館	堀貞一	宗教講演	
2月21日	女学校	-	勸州寺経雄	「後大喪儀に奉仕して」	
	-	女学校	平川（校医）	「狂犬病予防につき」	
1927 (昭和2) 年度	4月25日	女学校	-	堀貞一	「専門学部新入生の為」
	4月26日	-	-	「布哇に帰るに当りて」	
	6月13日	大学	-	ブロックウェー	「如何にして聖書を教ふ べきや」
6月15日	女学校	-	南洋伝道団宣教師田中春江夫人	-	
6月19日	女学校	-	河井道子（元女子青年会総幹事）	-	
6月25日	女学校普通 学部	-	西野貞子（ウィルミナ女学校）	-	

年度	開催日時	対象	場所	氏名（）内は当時の肩書き	講演題もしくはその内容
1927 (昭和2) 年度	10月29日	中学	-	大塚小一郎	精神講話
			-	日高(牧師)	
	11月12日	中学	-	堀(牧師)	精神講話
	11月24 ～27日	-	-	賀川豊彦	秋季特別伝道講演会
	11月26日	中学	-		「完全なる者の姿」
	11月25日	女学校	-	中井宗太郎(本校講師)	「帝展に関して」
	12月2日	女学校	-		
1月16～20日	-	-	バーマー	英語指導講演	
1月20日	中学	神学館	堀貞一	特別講話	
1928 (昭和3) 年度	4月18日	-	公会堂	山川端夫(前法制局長官)	「国際連盟を中心とする 国際政局について」
	4月23日	女学校	女学校講堂	新渡戸稲造(前国際連盟事務 次長)	「国際連盟について」
	5月17日	-	-	榊崎外彦(日本農村伝道団員)	「農村傳道の実際」
	5月25日	女学校	-	林毅陸(慶応義塾大学長)	「国際政治の進化と国際 連盟」
	5月26日	-	公会堂	清水安三	-
	6月6日	-	-	船津辰一郎(元支那総領事、 在華日本紡績同業会総務)	「支那紡績事業に就て」
	6月19日	-	学生会館	福井捨一(神戸消費組合長)	「消費組合の理想と実際」
	6月23日	女学校	-	末博重雄	-
	9月20日	同志社労働者 ミッション	神学館	山本是郎	「無産運動としての消費 組合と其実践方法」
				手代木文	「農村教化の理想」
				松井七郎	「アマノ共産村の社会的 意義」
	9月22日	同志社消費 組合	-	賀川豊彦	消費組合宣傳講演会
	10月17日	-	女学校講堂	沖野岩三郎	「徳富蘆花氏の『黒い眼 と茶色の眼』は如何にし て生まれたか」
				吉田絃二郎	「世界苦と近代文学」
	10月18日	大学法学部	学生会館	本位田祥男(東京帝大経済学 部教授)	「消費組合論」
	10月22、23日	女学校専門 学部	女学校専門 学部第一講 義室	藤巻	「栄養と疾病」
	10月23日	-	公会堂	榎本修(洛陽教会牧師)	「偉大なる創造苦に就て」
10月30日	-	神学館	濱田教授	「現象学の理解」	
11月19日	-	-	内ヶ崎作三郎	東西文明の相互影響につ いて	
12月4日	-	-	安部清蔵	宗教講演	

同志社大学女子入学志願者数及び入学者数調べ

年度	学部	入学志願者数	受験者数	入学者数	備考
1923年	文学部	4名		4名	無試験
1924年	文学部	2名		2名	無試験
	法学部	1名		1名	無試験
1925年	文学部	3名		3名	無試験
	法学部	1名		1名	無試験
1926年	文学部	6名		6名	無試験
1927年	文学部	9名		9名	無試験
1928年	文学部	8名		8名	無試験
	法学部	2名		2名	無試験
1929年	文学部	5名		5名	無試験
	法学部	3名		3名	無試験
1930年	法学部	2名		2名	無試験
1931年	文学部	5名	2名	5名	3名無試験

同志社大学女子入学者調べ

年代	入学者名	入学した学部及び学科	入学資格	入学試験成績順位	備考
1923年	松井（太田）ノブ	文学部英文学科本科	同志社女子専門学校英文科卒業	無試験	
	岡村（清水）ツルエ	文学部英文学科本科	〃	〃	
	木村（冬広）幾	〃	〃	〃	
	大石（勝浦）エツ	〃	〃	〃	
1924年	水口（高松）ミツ	〃	〃	〃	
	魚木（足利）多加	〃	〃	〃	
1925年	盛口婦美	法学部政治学科本科	〃	〃	
	浅野花代	文学部英文学科本科	〃	〃	
	加藤（花房）さだ	〃	〃	〃	
	上谷（水島）雪江	〃	〃	〃	
1926年	田辺（星野）繁子	法学部法律学科本科	〃	〃	
	竹中ウタ	文学部英文学科本科	〃	〃	
	青木（杉山）富士子	〃	〃	〃	
	下なつ	〃	〃	〃	
	与謝野（小林）迪子	〃	〃	〃	
	小林（糸原）喜代	〃	〃	〃	
1927年	今井（藤井）愛	〃	〃	〃	
	吉田（浅田）静	〃	〃	〃	
	縄田光江	〃	〃	〃	
	小畑静子	〃	〃	〃	
	柴田（大石）恭子	〃	〃	〃	
	原田（田島）松枝	〃	〃	〃	
	谷喜代子	〃	〃	〃	
谷村淑子	〃	〃	〃		

年代	入学者名	入学した 学部及び学科	入学資格	入学試験 成績順位	備考
1927年	山口壽賀	文学部英文学科本科	同志社女子専門 学校英文科卒業	無試験	
	梅田アサ	〃	〃	〃	
1928年	近藤（今村）綾	〃	〃	〃	
	多喜富美	〃	〃	〃	
	黒田マサエ	〃	〃	〃	
	山田（松居）静子	〃	〃	〃	
	河野（正木）リキ	〃	〃	〃	
	田代綾子	〃	〃	〃	
	岡田澄江	〃	〃	〃	
	橋本澄子	〃	〃	〃	
	高風京	法学部経済学科本科	〃	〃	
	王秀生	法学部法律学科本科	〃	〃	
荒木（木下）貞子	法学部経済学科選科	家政科	〃		
1929年	小寺廉子	文学部英文学科本科	英文科	〃	
	野波満子	〃	〃	〃	
	片山（島本）登志	〃	〃	〃	
	和田祝恵	〃	〃	〃	
	村田富子	〃	〃	〃	
	内田（西岡）正恵	〃	〃	〃	
	侯玉芝	〃	〃	〃	
藤本（的野屋）満江	〃	〃	〃		
1930年	佐田（江崎）マスミ	文学部英文学科本科	〃	〃	
	東（伊東（藤））節子	法学部政治学科本科	〃	〃	
1931年	山口（横山）壽々栄	文学部英文学科本科	〃	〃	
	瀧山秀乃	〃	〃	〃	
	中路ふみ	文学部神学科本科	〃	〃	
	小島公子	〃	梅花女子専門学 校英文学科卒業	7人中3番目	
	森内智恵子	文学部哲学科本科	梅花女子専門学 校英文学科卒業	7人中6番目	

学生生活の「いま」

一、キャンパスの整備

今回の企画展示で扱った大正期の、学生生活の一端をあらためてふり返ってみる。学生生活の本拠となる今出川キャンパスは、大正初期の頃は、中央付近を東西に貫く石橋通り（左側の道）で二分されていた（写真①）。一九一七（大正六）年に、市電を敷設するために、同志社が所有する今出川通沿いのキャンパスの一部と借用中の官有地とを交換して今出川通が拡張されたが、そのときに、この石橋通りを市から譲り受けた。こうして現在のキャンパスの原型が出来上がった（写真②）。それまでは、薩摩屋敷跡すなわち石橋通り以北が同志社のメイン・キャンパスで、有終館と致遠館の一郭は飛び地であった。

写真①に見るとおり、明治時代のレンガ建築が立ち並び、東門（写真手前の門）を入った突き当たり在当时の本部の建物があり、この手前で北に曲がり、さらに今の明德館あたりを西門へ通じていた。また、東門付近には受付があり、近くに本屋や靴屋などの店があった。今出川通拡幅後の写真②には、左手前に致遠館（大正になって初めて建てられた校舎）、その奥に旧弘風館、中央右手には旧徳照館などの建物が見える。



【写真①】大正初期の今出川キャンパス



【写真②】 大学令による大学となった頃の今出川キャンパス（1920年）

ちなみに、一九二二年四月、専門学校令による同志社大学が開校した当時、大学神学部、同政治経済部、同英文科、普通学校を合わせて、八百名余りだった学生数は、一九一九（大正八）年には千四百余名となり、翌一九二〇年に大学令による大学となって以後、キャンパスはますます学生でにぎわうこととなる。

このキャンパスで、当時の学生たちはどのような生活を過ごしたのだろうか。学生生活の一こまを見てみたい。

二、学生生活・行事

同志社EVE

同志社の創立記念日である十一月二十九日の直前三日間（十一月二十六日～二十八日）を、創立記念行事週間、通称「同志社EVE」と呼んでいる。そして、十一月中を「EVE期間」として、創立記念行事週間を迎えるまで、学生団体によるさまざまな催し（参加団体による演奏や作品展示、体験教室、講演会をはじめ、模擬店やステージ演奏など）が今出川キャンパスで開催されている。

この行事の名称は、同志社創立の周年にあわせて、『第百三十二回

同志社EVE』（二〇〇七年度）と呼称としている。戦時下に中止された時期はあったが、同志社EVEは、古くから学生生活の主要な行事となっている。現在は、同志社EVEを運営するチームとして、毎年実行委員会を結成して、学生が中心となって運営にあたっている。

記念音楽会

大正期の同志社EVEでは、創立記念日を祝う行事の一つとして、記念音楽会が開催されていた。一九二五（大正十四）年に開催された音楽会は、創立五十周年を記念して行われた。『同志社時報』（大正十五年一月一日、第二百三十七号）には、当日の様子が次のとおり報じられている。

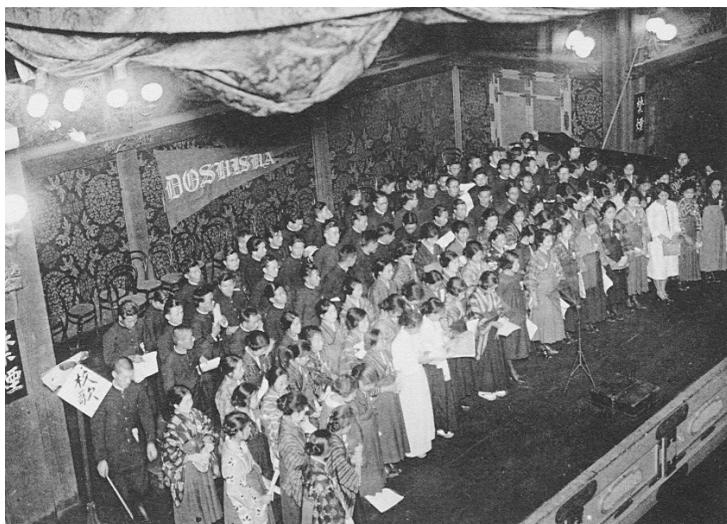
雲影深い秋の下に澄み切った疎水のほとり、黙して立つ公會堂へ集ふ男女の學生面にも擴がり行く自由の樂園を祝福する喜の色が溢れて居た。（中略）ミックスコーラスは確に當日の呼び物であるだけ、多大の興味を引き起さずにはおかなかつた。柳「宗悦」先生の指揮の下によく調和した、而して、練習のつんだ、圓熟されたリズムは緊張した空氣を通して人々の耳朶じだを柔らかに打つた。最後に全部起立して靜かなホール内の沈黙を破つて榮ある校歌を合唱した時、一室に集ふ男女の聲は、天上の音樂の様に引締まつて聞える、歌つて居る自分さへも感激の餘り、歌つて居る事も忘れて唯うつとりとするのみだつた。ハット我に返つた時、同志社チャージャー「cheer」の第一聲は既に滿堂を壓して居た。かくして幾多の期待と希望とを以つて迎へられた、演奏會も嵐の様に湧いてくる拍手の内に午後十一時を以て盛會裡に終了した。

ちなみに、一九三六（昭和十一）年まで、「混声合唱団」は、まだ正式に結成されておらず、日曜日に同志社教会において、大学のグリー・クラブと女学校のミリアム・クワイア（聖歌隊）が賛美歌の混声合唱を行うことがあった。また、同志社EVEや記念式典などで、ミリアム・クワイア、グリー・クラブ、マンドリン・クラブ、ホザナ・クラブなどが合同合唱団を構成し、「同志社混声合唱団」を名乗っていた。写真③④は、京都市岡崎の公会堂での様子である。

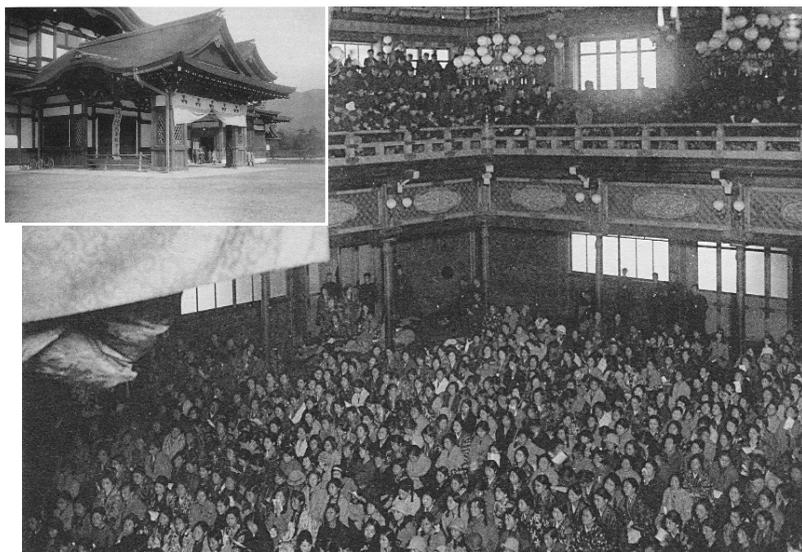
運動会

年中行事の一つに、毎年秋に開かれた陸上運動会がある。会場は、一八八五（明治一八）年から一九〇五（明治三十八）年までは、上賀茂神社境内で行われていた。これは、一九一〇（明治四十三）年にグラウンド拡張が行われるまでは、チャペルの北側は、相国寺の竹藪が一面に広がっていて、運動会を催すには狭かったからである。写真⑤は、一九一四（大正三）年の卒業アルバムに載っているものであるが、理化学館以北にかつて竹林が残っていた大正初期のグラウンドの様子がよくわかる。一八八五年に初めて開催されてから続いた「旗奪い」は、運動会の華であった。『同志社時報』（大正三年十一月一日、第百十四号）には、その熱狂ぶりが記されている。

待ちに待った運動会は、十月十七日の神嘗祭日を卜して開かる、事となつた。東山三十六峰にか、つた氣が、りな白雲もやう／＼散つてどうやら同志社日和と思はれた。彰栄の鐘がやがて八時を打たんとする
 刹那轟然初秋の静けさを破った一發の爆聲は同志社一千有餘の健児の活ける血潮を躍した。（中略）観客



【写真③】岡崎の京都市公会堂での同志社EVE記念音楽会
(1926年の卒業アルバムより)



【写真④】創立50周年記念音楽会会場となった京都市公会堂の
外観（左上）と会場（1926年の卒業アルバムより）

は増々加はつて行く、あの廣い運動場を狭きまでに包んだ人の数は、無慮七千と算へられた、彼等は今は只旗奪を待つてゐる様に見えた、時はよし競技は酣、漸く我が獨特の競技は始まる時となつた、自分も三年振だ、肉はわな、いて来た、血はわいて来た、どつとして居られなくなつて来た、知らずくに衣は、がれ吾れも又赤裸々の子となつた、三々五々飛び出す中に飛出した。

なお、同志社でこれまで親しまれている「Doshisha Cheer」(One, two, three, Who are we? La, la, la, Doshisha! ...) は、この競技の前に唱和するため、一九〇三(明治三十六)年にF・A・ロンバード (Flank Alanson Lombard) 教授が考案したものである(『同志社百年史』通史編一 学校法人同志社 一九七九年 五三三五頁)。



【写真⑤】運動会名物「旗奪い」(1914年の卒業アルバムより)

旧図書館（啓明館）の大閲覧室

一九一八（大正七）年十二月大学令が公布され、同志社でも専門学校令による大学から大学令による大学昇格を目指し、一定額の基本財産の供託、大学予科の設置、専任教員の確保とともに施設面での整備をはかった。

大正期に建設された主な建物は、旧図書館書庫（一九一五年）、致遠館（一九一六年）、そして大学令による同志社大学が認可された一九二〇年には旧図書館本館が完成している。その後、旧弘風館（一九二二年）、聚芳館（一九二二年）、旧徳照館（一九二三年）が大正期に建てられた。これらの建物で現存しているのは、致遠館と旧図書館（啓明館）である。

同志社大学図書館報『びぶりおてか』に「同志社大学図書館の歴史」が一九六七（昭和四十二）年から一九七八（昭和五十三）年まで十五回にわたって連載されている。無署名だが、執筆者は当時の閲覧課長で後に文学部で図書館学を担当した青木次彦教授である。旧図書館建設の経緯が詳しく述べられている。

第二代となる図書館は第一期と第二期に分かれて書庫と本館が建設されているが、いずれもW・M・ヴォーリズ（William Merrill Vories）の設計による。また、本館の建築費用は校友山本唯三郎氏の寄付、当時では巨額の八万九千七百九十九円二十六銭に負うところが大きい。ゴシック様式を取り入れた鉄骨煉瓦造りで、一階

に閲覧室と事務室など、二階には大閲覧室と事務室、三階に館長室と事務室、四階に法学部研究室、五階には宗教博物館と倉庫が当てられた。

写真⑥は竣工当時の図書館であるが、左（西側）の塔屋から右（東側）の二階と三階に相当する部分が窓枠によって貫かれている。ここに大閲覧室は設けられていた。

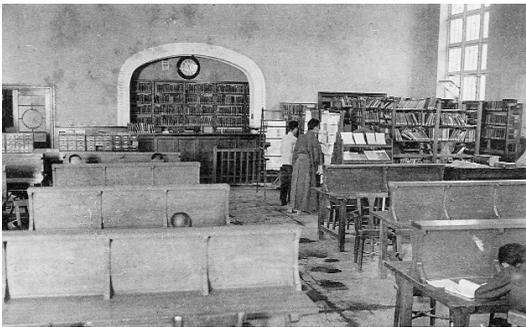
写真⑦は大正末期の大閲覧室である。東側から西面を撮影しており、中央は係員がいるカウンター、その左（南側）に入り口が見える。

写真⑧は当時の姿を残していると思われる一九五〇（昭和二十五）年頃の大閲覧室であるが、天井の高さが分かる。

一九五二（昭和二十七）年、図書館は利用者増にもない、補強工事と閲覧室拡張の必要に迫られ、二階の大閲覧室を二層に改造し三階部分を増設した。設計



【写真⑥】竣工時の旧図書館（啓明館）



【写真⑦】大正末期の大閲覧室
（1926年の卒業アルバムより）

は図書館の設計者であるヴォーリズに依頼した。

ヴォーリズは図書館改造工事設計書を作成し、過去に明徳館、彰栄館、新島会館、幼稚園等の工事を請負ったミラノ工務店に示して同店の工事費見積もりを要求した。

ミラノ工務店より、家具、設計監査費を除いて概算五百八十九万円を要する旨の回答があり、これをもとに同年六月十四日の理事会で、工事費概算及び工事請負人が決定された。

写真⑧は改造された昭和三十年代の二階閲覧室である。大閲覧室の上層、新しく三階となったフロアには研究室と書庫が当てられ、後に図書館の事務室となった。

旧図書館は第三代図書館の建設（一九七三年）にともない啓明館と名づけられた。現在大閲覧室のあとは、二階に国際センター、三階には人文科学研究所が置かれている。二〇



【写真⑧】大閲覧室（昭和25年頃）

○七年七月、啓明館は国の登録有形文化財に登録された。

参考文献

- 『大学関係書類綴』（簿冊）昭和六年
『同志社大学公文書綴』（簿冊）昭和六年度
同志社大学図書館報『びぶりおてか』十四号（一九七三年）
『同志社百年史』通史編一 学校法人同志社 一九七九年
『同志社時報』第三十一号（同志社時報社 一九〇七年四月）、第二
百四十三号（同志社時報社 一九二六年八月）
『同志社同窓会会員名簿』同志社同窓会 一九九六年
『同志社校友会名簿』平成五年版 同志社校友会 一九九三年
『同志社校友同窓会報』第一号（同志社校友同窓会報社 一九二六年
九月）（第三十号（同志社校友会 一九二九年四月）
『同志社女学校専門学部原簿』一九一七年～一九三二年
『同志社女子大学百二十五年』同志社女子大学 二〇〇〇年
『同志社社長兼校長報告（後に同志社社長報告、同志社総長報告と名
称変更）』明治四十年～昭和四年
『事業報告』明治四十年度～昭和四年度 一九〇七年～一九二九年
河野仁昭（聴き手）「宗藤圭三名誉教授に聴く大正期の同志社大学」
（『同志社時報』第六五号、一九七八年十一月）
『理事会記録』一九五二年度
『諸官庁学校往復文書綴』（簿冊）大正十年度
『財団事業報告』昭和四年 一九二九年



【写真⑨】改修後の大閲覧室